

令和3年度全国学力・学習状況調査 分析シート（小学校用）

国語	平均正答率 (%)	中央値 (問)	知識及び技能 (%)	話す・聞く (%)	書くこと (%)	読むこと (%)
府中市	66	10.0	65.2	82.3	60.5	53.7
東京都	68	10.0	69.9	81.8	62.7	53.5
全国	64.7	9.0	68.3	77.8	60.7	47.2

○平均正答率は全国を上回り、東京都を下回りました。中央値は全国を上回り、東京都と同じでした。
○領域別では、話すこと・聞くこと、読むことはよくできていました。知識及び技能（言葉の特徴や使い方に関する事項）、書くことに課題が見られました。

【教科に関する調査から分かったこと】（ ）は問題番号
○スピーチの原稿作成において、ある資料を用いた目的の説明として適切なものを選択することが、よくできています。（12）
△目的や意図に応じて理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるよう書き方を工夫すること（32）、文の中におけることばの関係(主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係)を捉えること（33(2)）に課題が見られました。

（質問紙調査から）

国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか

	市・児童数の割合	市・国語平均正答率
当てはまる	28.8%	74.3%
どちらかといえば当てはまる	44.7%	65.4%
どちらかといえば当てはまらない	21.9%	58.4%
当てはまらない	4.4%	49.7%

【質問紙調査から分かったこと】

「目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりすること」について、全体の1/4の児童が否定的回答をしており、肯定的な回答をしている児童ほど平均正答率が高い傾向にあります。「自分の考え」と「その理由」を整理して説明することの指導が必要であると分かりました。

算数	平均正答率 (%)	中央値 (問)	数と計算 (%)	図形 (%)	測定 (%)	変化と関係 (%)	データの活用 (%)
府中市	73	13.0	65.6	62.4	77.3	77.6	79.9
東京都	74	13.0	65.4	63.7	77.7	79.8	79.5
全国	70.2	12.0	63.1	57.9	74.8	75.9	76.0

○平均正答率は全国を上回り、東京都を下回りました。中央値は全国を上回り、東京都と同じでした。
○領域別では、数と計算、データの活用がよくできていました。都と比較して、変化と関係、図形に課題が見られました。

【教科に関する調査から分かったこと】（ ）は問題番号
○5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶことが、よくできています。（3(5)）
△速さを求める除法の式と商の意味についての理解（1(3)）や、30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書くこと（4(3)）に課題が見られました。

（質問紙調査から）

算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか

	市・児童数の割合	市・算数平均正答率
そうしている	58.6%	78.0%
どちらかといえばそうしている	33.0%	68.8%
どちらかといえばそうしていない	6.9%	59.6%
そうしていない	1.5%	52.5%

【質問紙調査から分かったこと】

「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」について、「そうしている」と回答した児童とこれ以外の回答をした児童と比較すると、平均正答率に大きな差が見られました。公式やきまりを学習する際に、単に知識として覚えるだけでなく、そのようになる理由を理解することについて指導することが重要であることが、改めてデータから明らかになりました。

令和3年度全国学力・学習状況調査 分析シート（中学校用）

国語	平均正答率 (%)	中央値 ^[14問中] (問)	話す・聞く (%)	書くこと (%)	読むこと (%)	言語 (%)
府中市	69	10.0	83.6	62.0	54.6	77.3
東京都	67	10.0	81.9	59.7	52.5	76.1
全国	64.6	9.0	79.8	57.1	48.5	75.1

○平均正答率は全国・東京都を上回りました。中央値は全国を上回り、東京都と同じでした。

○領域別では、書くことが都と比較して2.3ポイント上回っています。また、他の領域も都と比較して1.2～2.1ポイント上回っており、全体的によくできていました。

【教科に関する調査から分かったこと】()は問題番号
○意見文の下書きの構成の工夫について、書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考えることができています。(2二)

△「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択すること(4三)に課題が見られました。相手や場に応じた敬語の適切に使用すること、敬語の種類について理解することの指導が必要です。

(質問紙調査から)

国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか

	市・生徒数の割合	市・国語平均正答率
当てはまる	30.1%	74.6%
どちらかといえば当てはまる	48.3%	68.5%
どちらかといえば当てはまらない	17.4%	63.2%
当てはまらない	3.9%	58.5%

【質問紙調査から分かったこと】

「目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりすること」について、全体の1/5の生徒が否定的回答をしており、肯定的な回答をしている児童ほど平均正答率が高い傾向にあります。「自分の考え」と「その理由」を整理して説明することの指導が必要であると分かりました。

数学	平均正答率 (%)	中央値 ^[16問中] (問)	数と式 (%)	図形 (%)	関数 (%)	資料の活用 (%)
府中市	64	11.0	71.9	61.0	60.9	58.4
東京都	60	10.0	68.5	56.0	58.1	54.7
全国	57.2	10.0	64.9	51.4	56.4	53.8

○平均正答率、中央値ともに、全国・東京都を上回りました。

○領域別では、図形が都と比較して5.0ポイント上回っています。また、他の領域も都と比較して2.7～3.7ポイント上回っており、全体的によくできていました。

【教科に関する調査から分かったこと】()は問題番号
○錯角が等しくなるための2直線の位置関係を、記号を用いて表すことができています。(9(2))

△与えられた表やグラフを用いて、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することについて課題があることが分かりました。(7(2))

(質問紙調査から)

数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか

	市・生徒数の割合	市・数学平均正答率
そうしている	46.7%	68.6%
どちらかといえばそうしている	36.6%	60.1%
どちらかといえばそうしていない	11.9%	59.5%
そうしていない	4.4%	54.0%

【質問紙調査から分かったこと】

「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」について、「そうしている」と回答した生徒とこれ以外の回答をした生徒と比較すると、平均正答率に大きな差が見られました。公式やきまりを学習する際に、単に知識として覚えるだけでなく、そのようになる理由を理解することについて指導することが重要であることが、改めてデータから明らかになりました。